第３回　倶知安町景観計画・緑の基本計画検討会議
議事概要

◎日　時	令和２年１０月１９日（月）　午後２時００分～午後４時００分
◎場　所	倶知安町　風土館
◎出席者	策定委員会：矢吹座長、山田委員、坂井委員、辻井委員、大萱委員、笠間委員、古谷委員、佐藤委員、カー委員、大久保委員、峠ヶ委員 ※　欠席（高岸委員、岩佐委員）
	傍聴者：３名
	事務局：まちづくり新幹線課　遠藤景観室長、星加景観係長、八田主事
	コンサルタント会社：㈱KITABA　窪田、百瀬、松田

１．開会

２．あいさつ（座長）

３．議事

資料１～３までの内容について事務局から説明

（１）倶知安町の景観特性について（素案）【資料１】

（矢吹座長）

・事務局からの提案に対して、みなさんからご意見を伺いたい。

・雪から見た景観要素については、隣同士が仲良くできなくなるような状況もある。

・佐藤委員が良く言っているが、「隣の家の人に関心を持つ」ということが大切であり、いつの間にか花がきれいに整えられてたりするなど、ここで整理されている要素は町民の“気づき”にもつながる。

・雪の壁がまちの景観としてよいものと捉えている人もいる。

（笠間委員）

・景観特性を「自然・地形から見た景観」「産業から見た景観」「暮らしから見た景観」と分

けているが、その中でも「〇〇がつくる景観」というものもある。例えば、「暮らしから見た景観」の中に「どこからでも羊蹄山が見える」とあるが、それは暮らし“から見た”景観である一方で、「直線の道路がつくる」「雪解け時に町民がクリーン作戦を行う」などは暮らし“がつくる”景観である。同様に「農業“がつくる”景観」もある。

・それらの景観は倶知安町で暮らす人も見るし、観光客も見る。

・こういった景観が何で成り立っているのかを整理した上で、農業をする人、観光業をする人、そして日常的な暮らしをする人と大きく３タイプくらいになると思うが、それぞれの視点で整理すると深まるのではないか。

（矢吹座長）

・「～～から見た」というだけでなく、「～～でつくる」という視点は確かに必要である。

・山があり田園風景がありそれらがマッチしている、景観はホッとする豊かな心になる面もある。

・ちょっとした気配りで、長い時間道路を走ってきた人がホッとするような風景が通過するたびに気持ちよくなるような景観もある。

・「観光がつくる景観」という視点で何かご意見はないか。

（山田委員）

・観光がつくるというよりも、景観にあこがれて観光が成り立っていると考えている。

・この地に初めて訪れた方は羊蹄山を見てびっくりされ、さらにアンヌプリを見て楽しまれている。

・ニセコにスキーに来たらこんなに立派な山があって驚いたという人もいるが、景観が観光を呼んでいると思う。

（カー委員）

・一度も羊蹄山を見たことがなかった人に会うこともある。

・スキーをしない「スノーバカンス」を楽しむ人も増えている。きれいな水、空気、おいしい食べ物、治安のよい場所を求めて来る人もいる。

・人という視点では、子どもも大切な町民である。アンケートの結果も高齢者からの回答が多い。何十年先のことを考えると美しい自然をつくるためには、人口が減っていかないようなまちづくりも必要である。

（矢吹座長）

・この資料の前の段階には「文化」という言葉があった。「文化」とは教育であり、人づくりである。

・子供たちがどのようにまちづくりに参画していって、何十年後の世界をどう作っていくかを考えていく必要がある。大人が景観づくりについてルールをつくっても、今の子供たちが違う考え方で進めたいと思うこともある。

（カー委員）

・景観づくりは何十年先のこどもたちの未来のためである。

・学校など、子供たちの意見も聞く場が必要ではないか。

（大萱委員）

・自分は飛騨高山生まれであり、年間に 90 万の観光客が訪れている。一時、観光客が増え、朝市でお百姓さんが地元客向けと観光客向けの二重価格で販売をするようになった。

・お百姓さんも裕福ではなかったのでそのようなことをしてしまったのだと思うが、地元の人には普段より安く、観光客には普段より高い価格で売った。その結果、観光客が来なくなった。それを反省し、二重価格をやめてからは、観光客の賑わいが復活した。
・高山は雪も降り、屋根の雪下ろしを年に２回ほどしている。雪を下すときに町内会ごとに行っていた。そのようにまちの人が協力しあいながら一つのライフスタイルをつくっている。
・高山は町屋でつながっていることが基本であり、道路境界線が隣と面していることが普通である。そのため自分の家の前だけでなく、隣も掃除をする。境界から３尺まで掃除をしてもよいという考え方で、掃除をしてもらった人はしてくれた人に感謝するという文化がある。
・今でも、観光客が来てたばこやごみを道路に捨てても、自分たちの家の前をきれいにすることで路地にもゴミが無くなる。それが観光客の感動につながる。
・高山は観光の目玉となるものが何もなかったところなので、そのような文化が育ってきた。その土地で育った人々の暮らしそのものが文化であり、文化を象（かたど）ったものが景観である。景観をソフトウェアとして支えているものが人である。
・隣の家の雪で諍いが起こると聞いたが、それらをどのように消化していくかと考えたときに、高い塀を作るということでなはなく、話し合いで解決できるようにしていく必要がある。
・そのために必要な道具のようなものを見つけ出せれば、それが文化であり、人の景観を作っていくのではないか。

（矢吹座長）

・景観特性の案を見ていくと、「景観要素」という言葉で多くのキーワードが挙げられている。これらについてみなさんの目線からどのように思われるか。
・特に「町民の愛着から見た景観要素」は大変難しいテーマである。無形のものでも、町民の愛着のある景観要素として入ってくるかどうか。もしくは別の考え方もあるのではないか、ということなど伺いたい。

（佐藤委員）

・倶知安町の景観特性について、我々は景観に対しては将来の子供たちに残していくためにどうしたらいのかを話し合う必要があると思っている。
・（３）の「暮らしからみた景観特性」では、春になると雪によって散らばったゴミを拾うクリーン作戦や、街角に花を植える町内会の取組もある。観光客からもクリーンなまちは感動を与えると思うし、街灯もLED化し、明るく安全なまちができている。観光客もそれに気づいていると思う。そのような点も加えて欲しい。
・文章のまとめ方として、我々は「スキーリゾート」という言い方をするが、カー委員は「スノーリゾート」という言い方をする。年間を通したリゾートとして認められるようになっていくためにも言葉を統一した方が良いのではないか。

（古谷委員）

・自分たちの活動はだれのための活動か主語がはっきりしている。この資料では、主語があいまいである。

・これからのステップでは、これらをゾーンに分けて特性を整理し、具体的な話を進めていく方がよい。
・矢吹先生がフィールドワークの時に話された、まちの高低差（地形）の話は感動的だった。住民がほとんど知らない話であると思う。
・外からどう思われるかではなく、地元に住んでいる人がハッピーに思えるかが重要である。リピーターを増やすためも、地元に住んでいる人がハッピーになることが大切である。

（矢吹座長）

・ゾーニングはじわじわとグラデーションがかかるようになるかもしれないが、線引きをすることは可能である。
・住民がハッピーになるということは大切である。
・高低差については、川に向かって直角にまちを見ることは大切であるといった。そこから俯瞰して、まちが荒れていないかどうかを見ると良い。

（峠ヶ委員）

・20 年前にスキーで来たことから移住につながったのは、町民の方がハッピーに暮らしていることを感じたからである。それが今でも続いているから、移住者や海外から来る人も多いのだと思う。
・根底にあるのは住んでいる方が楽しく安全に暮らせることが大切であり、観光はそれらを見に来る人たちなのではないかと思う。
・みんな楽しく安全に暮らせる景観をつくりたいと委員は思っているが、まちの人たちに伝わっていないのではないかと思う。まちのみんなでそのような暮らしや景観を考えるきっかけがあれば、みんなでまちづくりに関わっていけるようになるのではないか。

（矢吹座長）

・一部の人だけが景観づくりにかかわっていくような進め方にすることは良くない。
・まちのみんなも倶知安町の景観について良いと思っているはずだ。

（古谷委員）

・自分たちが一生懸命取り組み、「いい景観だ」と言い続けていれば、子供たちもその思いを引き継いでくれると思う。
・子供たちも大人たちの背中を見ている。

（カー委員）

・良いまちを作るのは子供のためでだけなく、親が住みやすいためである。そうすれば移住にもつながるものである。
・大学進学を考えると、倶知安高校ではなく札幌に行きたいと言い出した。札幌に行くと自分のできる英語がうまくないということから留学している。本心を言うと、親の近くで学校に通ってほしいし、地元に戻ってきてほしいと思う。
・一方で、大学もないので、こちらで学ぶこともできない。

（矢吹座長）

・将来ここで生きていく子供たちのための土台を残していく必要がある。のりしろがあっても良い。

（坂井委員）

・景観特性について（１）（２）（５）は町民みんなが思っていることと思う。
・（３）（５）について、町内会の高齢化が進む中クリーン作戦などを進めているが、担い手がおらず大変な状況である。
・さらに雪のことも、特性というよりも問題点であると感じている。狭くなった道路の譲り合いや子供の背丈を超えた雪の壁も決してよいものではないと思う。
・将来を見てこどもたちに任せるのではなく、町全体でどう取り組めるかを考えていかなくてはいけないと思う。

（矢吹座長）

・雪深いイメージだと雪壁をぬって歩く光景にあこがれるようなところもあるが、安全面では良くないこともある。
・要素や資源だけでなく、課題を要素や資源につなげていくことが必要である。
・ほかのまちの景観計画では、景観特性を整理している。
・かつてのまちなみを今尚保存できているまちは少ない。残す、残さないではなく、教育の中でどう伝えていくかが大切である。

（辻井委員）

・倶知安らしい切り口が網羅していると思う。
・この景観特性を基本方針の頭出しにつなげていくとのことなので、こちらで問題ないと思う。
・倶知安は北海道の中でも雄大な北海道らしさが表に出ている表現がされているし、方針ではもう少し協調してもよいと思うが、おおむね良いと思う。

（大久保委員）

・前回の部会で、景観や地域の中に自分がおり、まず自分のことでできることは何か、その次に隣近所との関わりの中で何ができるか、という点で考えることが大切であると感じた。
・町内全体で捉えると広すぎるが、自分の周りの土地で何ができるか、次にお隣との連続性を考えられる。
・ひらふ地区では門や塀で区切っていかない自主ルールがあったことから圧迫感のない景観ができている。そのような点は守っていきたい。
・ルールづくりをこの計画で考えていくものであるが、大人や子供に対して景観づくりの啓発や啓蒙が必要であると思った。子供たちはまちの歴史は学校の中で学ぶが、その中で景観に関することも学べるとよい。
・大人が頑張って作り上げたものに対して、子供たちも理解が深まるのではないか。
・これだけまちで頑張っている活動であるが、町民は知らないことも多い。広報活動が必要である。
・町外からの企業も多く、短期的に住む住民に対する「景観を大切にするまち」のアプローチも必要である。

（矢吹座長）

・大人も学ぶことで気づき、発見して生かすことにつながる。
・先月の広報に「景観だより」が入っていたが、そのような広報や町民に対する問いかけ

も必要である。

（２）地域ごとの景観要素と課題について（素案）【資料２】

（星加係長）

・資料３にゾーニングの地図があり、おおまかな範囲が整理されている。

（矢吹座長）

・できれば森林地区に自然公園法などのルールがどのように乗っかるのかも分かれば、わかりやすいと思う。

（山田委員）

・駅前通りは車道と歩道があるが、歩道は商店主が除雪することになっている。しかし土地売買で空き地になると、その前の歩道が除雪されない。スーツケースを持ったお客さんが車道を歩いたり、歩道の雪山を登って駅に向かっている。

・また営業しているのに除雪されないこともある。早めにルールをつくる必要がある。

（峠ヶ委員）

・この間の広報のように、話し合われた状況を共有できるようなものがあるとよい。

・羊蹄山にある草花にどんなものがあるのかなどでも良いので、情報発信していくことが必要である。

（矢吹座長）

・博物館という施設と学校教育について学生に学んでもらっているが、発見がなければ学びがないと学生に伝えている。

・まちづくりは「あなたの隣にいる人に関心をもつこと」から始めようと話をしている。

・会議や部会もそれぞれ行っているが、それらが外に向かって発信できるようなことを進め、町の人に対してもこのまちの景観について情報共有できるような特別な場が必要である。

・広報を見た人は「何かやってるな」と感じていると思うので、委員の人たちに町民の意見も聞いてもらうような場があるとよいと思う。

・一度この資料を持ち帰ってもらって、考えてもらい、都度事務局に意見を出すようなやり方も良いと思う。

（矢吹座長）

・(13) のその他の景観要素について、今後の整理の仕方で何か意見を伺いたい。

（笠間委員）

・ここにある１）～５）の項目は、景観特性とは別に暮らしを便利にするものであるが、暮らしの魅力を損ねる可能性もあり、商売・産業と地域暮らしのバランスを考えなくてはいけない。

・国道５号など具体的な例を見ながら検討していければよいと思う。

（古谷委員）

・この会議ではゾーンごとに関わるような人が委員として網羅されていない。例えば農業者がいないのに、農業景観について話し合うと批判が生まれるのではないか。上辺だけの話し合いになる。

・文章が多い資料ばかりになると、農業者などは来たくなくなる。雰囲気も堅苦しい。正

しいことを言う人ばかりだけでなく、間違っても本音で話す人がいる会議にするべきだ。
・もっと広い人材を集めた中での総意でないと、次の世代がついて来ない。

（矢吹座長）

・農家の人とはこちらに移住してからいろいろな話をしているが、個性的な人が多くいる。
・造り酒屋から出る酒粕を農業に生かす方法を調べて、自分たちの周りの環境を守っていきたいという若い世代も増えている。
・そういう方々も入ってこられるような雰囲気も必要である。

（カー委員）

・農業を守るという点では、ゾーニングは深く関わってくるが、最終的にはゾーニングを決めていくという考え方でよろしいのか。
・これからは法律も変わり、転農もしやすくなっている。農業を守るにはルールづくりが必要である。

（星加係長）

・暮らしにおける農業の占める要素が大きく、観光面でも農業の要素は需要が高い。
・農業者が将来にわたって営農できるような環境づくりは「景観」という観点からも考えていきたいと思ってはいるが、景観だけで農業を守るということを当てはめることが難しく、明確なゾーニングというのは難しいかもしれない。
・さまざまなものが関わり合って景観がつくられている中で、農業も重要な役割を占めている。そのうえで農業を保全していくことの大切さを示していきたい。

（カー委員）

・みなさんのアイデアを出し合って話しをするなら、リラックスしながら話せるような場が必要である。
・農業している人から土地の売買はたくさん問合せが入っている。
・倶知安の景観を守るのであればゾーニングをしっかりと決めていかなくては農業がなくなるのではないか。

（古谷委員）

・優良農地は別であるが、リゾートに吸収されるような農地は農地という名前ではありつつも耕作されていない。そのようなところも農地として保全していくのか。
・ゾーニングの問題は景観づくりについて大きな要素であると考える。
・山の方はあまり作物はとれないが、裾野の方は肥沃な土地であり作物も多く採れている。
・農家が減ってきているところもあり、あまり取れないところよりも、肥沃な土地をより保全していくことが必要である。
・そのような詳細な部分は地元の人でないと分からないことも多い。地域に住んでいる人、地権者がいないと空論の議論にならないか。
・事務局としては地域の情報収集をし、それを反映していかないと絵に描いた餅になる。

（笠間委員）

・農業の後継者の問題などもあるが、人々の暮らしが変わってくると景観もおのずと変わっていくものである。
・農業・森林地区は倶知安町としては劇的に変わっていかないで欲しい地区であり、さらに観光など活用されるとよいと考えている地区である。一方で、すべてがリゾート化し

てほしいわけではないので、棲み分けが必要である。

・（1）（2）（7）はある程度ルールにおける働きかけが可能な地区である。それらについて「もう少しこうしてほしい」という意見をもらえると会議が進んでいくのではないか。

（矢吹座長）

・今日いただいた意見については、この場で総括することはしない。主に景観特性を整理していく上での大切な視点をベースにご意見をいただいたと思っている。

・これを踏まえて、事務局で改めて景観特性をもう一度検討し直すことになると思う。

・次回は、この資料をベースに改めて意見交換するイメージになるかもしれない。

（星加係長）

・本日の意見を踏まえ、事務局としても、改めて必要なところは見直したい。

・資料３の理念・方針については、本日としては議論いただくことを想定しておらず、今整理している景観特性をベースにしたときにどのような理念・方針が考えられるか、というものである。ここについては、次回に改めて検討の上提示したい。

４．その他

（峠ヶ委員）

・商店街でお店をやっているが、10 月 31 日・11 月 1 日で本に関わるイベントを開催する予定である。

・その時にまちづくりの現状がどうなっているのかをまちのみんなに知れる場にしたいと思っている。役場のウエダさんがまちづくりについて話してくれる場を作ったので、よければ参加してほしい。

・まちの人たちに新幹線の駅舎ができたらどうなるのかなどの意見が聞ければと思っている。

５．閉会